

Amir Tsarfati 氏 中東情勢スペシャルアップデート 2017年12月7日公開 トランプ大統領、エルサレムをイスラエルの首都と宣言、その影響

.....

皆さんこんばんは。アミール・ツアルファティです。ご覧の通り、ガリラヤの自宅からです。ライブが出来ることをうれしく思います。昨日は歴史的な日でした。今日は、それについてお話しします。エルサレムがイスラエルの首都である、とアメリカが認識することの意味について、多くの人が、クリスチャンだけでなく、未信者の人たちも興味を持っています。まず、先にお詫びしておきますが、私は今、風邪を引いているので、途中で咳き込むと思います。紅茶にレモンと蜂蜜を入れて飲んでいるので、明日までには良くなると思いますが。明日は、新しい団体がイスラエルに到着するので、良いコンディションでお迎えしたいと思います。(くしゃみ) 失礼しました。では、始めましょう。

イスラエルのガリラヤより、こんばんは。アミール・ツアルファティです。昨日のトランプ大統領のエルサレムに関する発表について、フェイスブックライブでお話しします。まず、イスラエル中と中東全域の人々が、トランプ大統領は本当にそんなことを行うのか、と疑っていたと言っておきます。しかし昨日、彼は有言実行する男だという事を証明しました。また、彼はとても聡明だと思います。彼が、エルサレムがイスラエルの首都であると認識したのは、アメリカが最初にイスラエルを主権国家として認識してから、70年目です。また同時に、トランプ大統領は昨日、多くの方がこれを知りませんが、さらに6ヶ月延期することに署名しました。彼が署名した理由は、現在は移動させる場所も建物もないからで、これからの6ヶ月は、場所探しや建築家との契約等で多忙になることでしょう。そしておそらく、大使館が物理的に実際に移動するまでには、さらに6ヶ月の延期が必要になると思います。そして、その期間に、アラブ界もこのアメリカ合衆国の信じられない動きに対して、消化する時間が出来るでしょう。この動きは、ホワイトハウスで整えられましたが、アメリカ国務省内の多くの反イスラエル派高官たちの意思に反していることをお伝えしておきます。感謝な事に、素晴らしい国務長官と素晴らしい政府がいますが、アメリカ国務省と外務省の高官たち、とくに中東にいる人たちは、激しく親パレスチナ、反イスラエル主義です。そして彼らが、イスラエルをヨーロッパのメディアに情報というか誤報と言うか、をずっと漏洩しているのです。

「トランプには、中東に関する政策も計画も全くなく、政治的な指針に従うのではなく、ただ緊迫感だけで動いている。」

私がそれらを笑うのは、彼らが政策を読んでいないのが明らかだからです。それは、共和党の政策であり、そのためにトランプが代表として選ばれたのです。共和党の政策には明確に書かれています。

「エルサレムは、分割することの出来ない永遠のユダヤ人国家の首都である。」

そして、皆さんが覚えていらっしゃるかどうか分かりませんが、トランプはユダヤ人有権者にも、福音派支配者たちにも約束しました。

「エルサレムに大使館を移転し、エルサレムをユダヤ人国家の首都として認識する」と。

次に、明確にしておきますと、これまでにイスラエルを訪問したアメリカ大統領は、全員イスラエルに来るとエルサレムを訪問しました。エルサレムを飛ばしたことは一度もありません。彼らは首相事務所を訪れ、国会を訪れ、大統領邸宅を訪れました。彼らは全員、エルサレムを首都として認識していまし

た。しかし彼らは、それを公式に認識するという大胆な行動に出ることを恐れました。恐らく、皆さんの多くがご存知ないと思いますが、全ては遥か1945年2月12日にまで遡ります。何とその日、スエズ運河のクインシーという船の中で、アメリカとサウジとの間で同盟が成立しています。F.D ルーズベルト大統領と、サウジアラビアを創設したサウジの王アブドゥルアズィーズ・イブン=サウドとの間で、ある事に合意しました。アメリカはサウジの石油と引き換えに、アメリカがサウジを防衛する。そして、サウジの君主、王は、ユダヤ人国家の認識について、アメリカに警告しました。ルーズベルトはそれに対して、先にアラブ人に相談することなしに行動を起こさない、と約束しました。1945年、アラブ人は、——イスラエルは、ユダヤ人がホロコーストを生き残り、ホロコーストの灰の中から出て来て、基本的にはエゼキエル37章が成就したのですが、——アラブ人は、ユダヤ人国家に対して拒否権を手に入れたのです。それがとても興味深いのですが、よく考えてみてください。それがアメリカ合衆国史上、二人の偉大な大統領が登場するまで、ずっと続いたのです。

- ① 一人は、もちろんハリー・トルーマン。彼は、國務省のアドバイスに逆らって、サウジの意思に逆らって、多くのヨーロッパ指導者たちの意思に逆らって、イスラエル国家を認識しました。70年前です。それが、一人の素晴らしい指導者によって行われ——ちなみに今日聞いたのですが、彼は敬虔なクリスチャン家庭で育ったそうです。恐らく、イスラエルを守り助けるように、教えられて育ったのでしょう。
- ② しかし、もう一つ皆さんにお伝えしたいのは、トルーマン大統領以来、そのレベルで歴史書に名を残し、聖書預言成就のための道具として、神の御手によって用いられた大統領は、ドナルド・トランプ大統領まで、誰もいません。

センセーショナルな言い方をして、申し訳ありません。普段は、私はセンセーショナルに伝えたりはしませんが、トランプ大統領の昨夜の行動は、中東と世界に激震をもたらしただけでなく、1948年にトルーマン大統領が行ったのと同様だと言っておきます。そして、この二人の大統領はともに、神が聖書預言の中でアメリカにさせようとしていた大きな役割を果たしたのだと、私は思います。全く、それに劣るものではありません。多くの人から、アメリカは聖書預言のどこに出て来るのか、という質問を頂きますが、お答えしますと、アメリカは聖書預言には出て来ないでしょう。しかし、現代のこの時代に、イスラエル国家を創設するため、イスラエル国家が認識されるため、イスラエル国家を守るため、そして今は、エルサレムがイスラエルの首都であると認識するために、神によって大いに用いられていると思います。皆さんの中の多くは、それが当然のように思っておられるでしょう。イスラエルは存在し、エルサレムがその首都である、と。しかし、我々イスラエル人にとっては、それは当然のことではないのです。ほんの85年前まで、我々には国がなく、迫害され、現代のヨーロッパ諸国によって何百万人と大量虐殺されてきたのです。昨日まで、イスラエルの歴史的な首都であるエルサレムが、現代のイスラエル国家の首都である、と公式に認識した主権国家はなかったのです。(書記注:日本の中学校の社会科の教科書にも、「イスラエルは、エルサレムを首都として宣言していますが、国際的な承認は得ていません」と書かれています。)それが昨日の出来事で、地図全体が変わりました。説明しましょう。第一に、明確にしますと、昨日のトランプ大統領はその演説の中で、すでに明白であることを認識しているだけだ、とはっきりと言いました。誰もが知っていることを、です。エルサレムがイスラエルの首都であることは、誰もが知っています。イスラエルを訪れる人は全員、首相にテルアビブで面会するようになどは要求しません。彼らは、エルサレムがイスラエルの首都であることを知っていて、イスラエルの首相に

会いに行きます。昨日、トランプが言ったのは、

「もしもし？これはリアリティーテストだ。なぜ、これを言ってはいけないんだ？なぜ、これまで何年も、見て見ぬふりをして来たんだ？」

もう一つ、彼が言ったのは、

「何も変わらない。アラブ人たちは神殿の丘で祈り、ユダヤ人たちは嘆きの壁の所で祈り、クリスチャンたちはヴィア・ドロローサ（苦難の道）を歩くことができる。何も変わらない。」

「エルサレムをイスラエルの首都として、宣言する。今からユダヤ人は、周囲のもの全員を追い出さない」というようなものではないのです。これは、地獄の底から這い出た嘘です。トランプ大統領が言っているのは、基本的にこうです。

「もう、ふりをするのは止めよう。」

「エルサレムがイスラエルの首都であると知らないふりをするのは、もう止めよう。」

「それを口にしようじゃないか。何も恥ずかしいことではない。」

多くの人が、これを、狂っている、と考えていることも分かっていますよ。世界のほとんどが、これを狂っていると考えています。では、お聞きしますが、国家の首都が認識されないとは、どれほど狂ったことでしょうか。私にはまったく理解できません。我々の国だけ、国々の大使館が首都でない所に置かれているとは、一体どういうことでしょうか？よく考えてみてください。これはかなり不服なことです。そして、これは異常だと思います。もし我々を国として認めるなら、我々の首都は、我々の首都であると認識しなければなりません。

また、とても興味深いのは、トランプ大統領の発表に続いて、フィリピンの大統領が

「フィリピンも、大使館をエルサレムに移転する」

と表明しました。ロドリゴ・ドゥテルテ大統領はなぜ、そんなことを言ったのでしょうか？と聞かれますが、それに対して私は答えます。

「きっと、トランプ大統領以上に狂っているのは、彼だけなんだろう。」

私の言う「狂っている」は、悪い意味で言っているものではありません。良い意味で狂っている、ということ、この世の政治なんか気にもせず、ただ、正しい事を行う人のことを言っているのですよ。ドゥテルテ大統領は、麻薬ディーラー等を殺しているとか何とかで、世界のメディアからは批判されていますが、皆さんに言っておきます。彼は、これまでの全ての大統領が引き継いで来たものの中で、最も難しい状況を引き継いだのです。そして彼が今行っているのは、麻薬中毒になった国家の再建、復興です。言っておきますが、悪を打ち負かすには、あれぐらい狂っていなければ出来ません。そして、彼はそれぐらいに狂っていたために、ポリティカルコレクトを打ち破ったのです。だから、ドゥテルテがそう言った時、私は驚きませんでした。ポリティカルコレクトを演じない者が、そこにある現実を見据えて、誰の目にも明らかな現実を認識したのです。それが一つ。

そして、チェコ共和国が、ヨーロッパ諸国の中で一番に「エルサレムがイスラエルの首都である」と認識しました。彼らが実際に言ったのは、

「西エルサレムを、イスラエルの首都として認識する」

その事を、ある人は批判しますが、私はその事を批判したりしません。私からすれば、それが初めです。

たとえそれが西エルサレムだったとしても、人々が大使館を移動し始める。私は構いません。少なくとも、テルアビブに大使館があるというのが、完全に不条理なことだと、彼らは理解しているのですから。

では、何が起こったのかを理解して行きましょう。

まず第一に、トランプ大統領は彼の国民に約束しました。ところで、同じことをジョージ・W・ブッシュ大統領も約束しましたが、彼は全く実行しませんでした。オバマ大統領はユダヤ人の全聴衆の目の前で言いました。

「私は、エルサレムがイスラエルの首都であり、絶対に分割してはならないと信じている。」

オバマがそう言ったのですよ。しかし彼は、明らかにそれを守らず、全員に嘘をつきました。トランプ大統領は、他の者たちが言ったのと同じことを言いました。ただ、彼が他と違うのは、彼は、自分が行うと約束したことを実行している点です。面白いと思いませんか？やると言った事を実行している人に対して、皆が怒っているのです。私にすれば、これがとても引っかけります。信じられない事です。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいのが、トランプ大統領と、アメリカの福音派の牧師との間で、興味深い会話があったのです。数か月前、その牧師がトランプ大統領に、エルサレムの重要性について全て伝えた時に、この件に関しては、これまでの大統領全員に失望させられた、と言ったそうです。それから、「これに関して、あなたはどうかおつもりですか？」

と聞くと、トランプ大統領はこう言ったそうです。

「全員があなたを失望させたかも知れないが、私は同じことはしない。」

そして、その牧師は、

「それは、来年ではなく、今年しなければならぬ。」

と説明したそうです。大統領は、なぜか？と聞き、それに対してその牧師は、

「ヨベルの年だからです。」

と答えたそうです。1917年のバルフォア宣言から、1967年にエルサレムがイスラエルによって占拠され、再統一されるまでに50年。そして、エルサレムがイスラエルの手に渡ってから、エルサレムがイスラエルの首都であると認識されるまでに、今年でちょうど50年。このように、レビ記25章のヨベルの年が、今回のこの舞台裏にあったのです。そして、その同じ牧師が、トランプに言ったのが、

「パレスチナ、ロシアやイギリスが何を言おうと、エルサレムは永遠にユダヤ人の町です。これは、人間による事ではなく、神による事であり、神が約束された事だからです。ですから、トランプ大統領がもし祝福されたいなら、創世記12章に従って、イスラエルを支援しなければなりません」

3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、…

(創世記12:3a)

なんと、2017年の今、世界的指導者が行動を起こす時、その頭の中には聖書の御言葉があって、世界中で物凄いことが起こっているのです。このように、今日の大統領が決断する際、聖書の占める割合が非常に大きいのです。これは、驚くべき事だと私は思います。国家として、我々にとってドナルド・トランプ大統領以上に友好的な大統領は、これまでのホワイトハウスにはいなかったと思います。彼のしていることを見れば見るほど、ワシントンやヨーロッパ、さらにはアラブ界も、その汚く腐った政治を、

彼が全く恐れておらず、そのままを指摘するのを目にして、私は彼を賞賛しています。ところで、このために彼は、アラブ界で大いに尊敬されているのです。トランプ大統領は、はるばるサウジアラビアまで来たとき、アラブ界に「イスラムテロ」と言ったのです。誰もが口にするのを恐れている言葉、アメリカや世界の他の場所では使うことを禁じられている言葉です。警察さえも、使うことが法律で禁止されているところもあるほどです。今年の夏、私がオーストラリアを訪れた時、メルボルンの警察署長の一人が、

「イスラムテロという言葉を使えない」

と言っていました。想像できますか？

しかし、面白いことに、トランプ大統領はアラブ界の中心サウジアラビアまで行って、サウジと、その他そこにいた国の人々全員に言ったのです。

「イスラムテロが問題であり、あなたがたが、それに対処し始めなければならない。」

そのように話をすると、そのように状況を目の前に提示すると、人は、その人を尊敬するものです。そのために、なんと、サウジからもヨルダンからも、エジプトからも湾岸諸国からも、大騒ぎする声や警戒する声が、一切聞こえてこなかったのです。パレスチナ人は、現在大変なショックを受けているのです。誰も、それに対して警戒しないからです。もちろん、フランスの大統領は何かを言い、欧州連合が何かを言い、ローマ法王までもが何かを言ったと聞きましたし、プーチンも何かを言いました。しかし、それだけです。だれも、です。

ところで、明日、国連安保理で特別議会が開かれます。当然ですよ。これは、イスラエルに関する事ですから。覚えていますか？リビアやシリア、イラクで何千人と殺されることは構わない、それに関しても何も言わないのに、あろうことか、ユダヤ人にエルサレムが渡ると、国連安保理が直ちに召集されて、それについて語り合い、何とか拒絶しようとするのです。しかし、言っておきますが、国連は非常に慎重にならざるを得ないのです。なぜかと言えば、資金の大半がアメリカ合衆国から出ているからです。しかし、そろそろ誰かが線引きしなければならないのです。トランプ大統領は、それを実に明確に示しました。私が思うに、さらに多くの国がトランプ大統領の決断に続いて、少なくともエルサレムをユダヤ人国家の首都であると認識し、そして、大使館をエルサレムに移すでしょう。たった一人の勇気ある者が、最初の行動を起こせば、他の人たちはそれに続くものだと思います。それが、チェコ共和国で起こりました。今後さらに、東ヨーロッパの他の国々でも起こって、後々さらに多くの国が続くと思います。ポリティカルコレクトにすっかり浸ってしまっている国は、確実にそれが気に入らないでしょう。特に、すでにイスラムに明け渡してしまった国、ドイツやフランス、その他こういった国は、そんな事を支持することも出来ないのです。彼らは、国内にいる自国民の中のイスラム教徒たちを恐れていますから。ということで、福音派の動きが、舞台裏にあることをお伝えしました。ところで、なぜ、昨日トランプ大統領がいくつものクリスマスツリーの隣に立ったのか、同様に敬虔なクリスチャンであるマイク・ペンス副大統領もそうしたのか、これで納得がいきますね。昨日、彼はキリスト教国家アメリカを示したのです。自分たちは、エルサレムの聖書に基づいたルーツを理解しているのだ、と世界中に伝えたのです。そして、聖書を基にしたエルサレムとユダヤ人の属性を、クリスマスツリーを背景にして、「クリスマスは、キリストが成されたことを念頭に置いて祝うべきだ。」

と、彼が発言をした数日後に表明したのです。そして、ホワイトハウスの中でこの8年間に殺され、息

の根を止められていたクリスマススピリットを復活させたのです。これは、驚くべき事だったと思います。

次に、ご存知の通り、ペンス副大統領は、物凄く敬虔なクリスチャン、熱心な福音派クリスチャンで、祈禱会や祈禱集会に参加し、イスラエルの強力な支援者の一人です。そして、皆さんにお伝えしたいのは、昨日トランプ大統領がああ発言をした直後に、ペンス副大統領が声明を発表し、その中で彼は次のように言っています。

「今日、私たちの大統領は、『アメリカは我々の味方、特に我々の最も大切な味方であるイスラエルと共に立つ』という事を明確にし、歴史的な一歩を踏み出しました。これまで20年間引き継がれてきた政権は、イスラエル国内のアメリカ大使館をテルアビブからエルサレムへ移動させる、という意思を表明していながら、言葉だけで一切行動が伴いませんでした。しかし、トランプ大統領は有言実行の男であり、彼は、自分がアメリカの人々にした約束に責任を持ちます。」

ワーオ！すごくないですか？まず、イスラエルがアメリカの最も大切な味方だと認識し、それからこう言っているのです。

「皆さん、申し訳ないが、ホワイトハウスの大統領は、約束したことを果たそうとしているだけです。」ただそれだけです。皆さん、慣れてください。

次に、パレスチナ人の間で、何が起きているのかをお話しましょう。まず、皆さん、私を信じてください。本当に。私はここに住み、私はパレスチナ界を知っていますし、アラブ界を知っています。私たちの周りで起きていることに関しては、ほぼ専門家です。その上で言うておきますが、彼らは次に起こることが見えていません。パレスチナの大統領マハムード・アッバスは、こうなるかも知れない、という噂を聞いたとき、直ちに電話をかけたのです。彼は、自分は何を言っても許される、自分はアメリカのお気に入り、ヨーロッパのお気に入り、アラブ界でもお気に入りだと知っていました。だから、自分が電話をかけて「怒っている」と言えば、皆がすぐに考えを変えるだろうと思っていたのです。オバマが大統領だったとき、パレスチナはそれに慣れきっていたのです。欧州連合からも、他のアラブ界からもそうでした。それがどうなったか？どうなったと思いますか？アッバスはトランプ大統領に電話をして、それは本当かと尋ねると、トランプ大統領は答えました。

「そうだ。本当だ。」

そして、

「せっかく話をしているのだから、もう一つお知らせすると、私は、エルサレムがイスラエルの首都であると認識するだけでなく、いずれ大使館も移動させるよ。」

と。大ショックを受けたアッバス大統領は、電話を切って、すぐさま半狂乱になって受話器を取り、ヴラジミール・プーチン、ローマ法王、アラブ界の指導者たちに電話を掛けたのです。そして、彼が耳にした彼らの言葉は、

「それは悪い知らせだね…」

「それは、国民のためにならないとは思うが…」

誰も

「我々が何としてでもそれを変えさせる」

とは一切言わず、誰もパレスチナの味方に付こうとは一切しなかったのです。それが彼らにとっては最大のショックだったのです。事実、トランプ大統領は、サウジに相談なしには、これを発表しませんから。サウジがその3日前に、パレスチナに言った内容が漏れて来たのも、偶然ではありません。

「我々の考えるイスラエルとの将来的な和平案は、ユダヤ人入植者も入植地も全てそのままどまり、パレスチナの首都はエルサレムではなく、エルサレムの東側にあるアラブ地域アブ・ディスだ。」

想像できますか？つまりサウジが、パレスチナ人に提案しているのです。

「我々は、エルサレムがあなたがたの首都ではなくなる、という現実を受け入れることができる。」

皆さん、理解しておかなければならないのは、二つの事を分けて考えなければならない、ということです。エルサレムがパレスチナの首都である、という政治的な事。それと、エルサレムがムスリムにとって重要だという宗教的な事。昨日、トランプ大統領がアラブ界に対して言ったのは、こうです。

「私は、何も変えていない。アル=アクサーモスクのある神殿の丘はそのまま、ムスリムたちはそこで祈るのだ。我々は何も変えようとしていない。ただ、エルサレムがイスラエルの首都である、と宣言しているだけだ。パレスチナは、向き合って交渉を続けたいのなら、態度を改めるべきだ。」

面白いと思いませんか？サウジは、それに対して何も問題ないのです。事実、穏健派スンニ界の大部分において、シーア派對スンニ派、イラン対サウジの紛争から、現在イスラエルはムスリム内部の紛争による恩恵を受けているのです。過去10年間は、中東のアラブ人たち、特にムスリムたちにとっては最悪の10年でした。この10年以上に血が流された年はありません。それでいて、よく考えてみると、イスラエルにとっては史上最高の年でした。現在、GDP（国民一人あたりの総生産）は、44,000ドルです。皆さん、理解しなければなりません。これは物凄い飛躍なのです。イスラエルは革新的な国で、今や世界中の投資家たちを魅了しています。ほんの二週間前に、メルセデスベンツがイスラエル国内に開発研究所を開設しました。アップルやグーグル、サムスンと言うまでもなく、マイクロソフトも皆、ここイスラエルにいます。誰も恐れていないし、誰も問題に思っていない。グーグルによって200億ドル近くで買収されたような最先端の会社が、エルサレムに身を置いているのです。エルサレムに彼らの本社がありますが、誰もそれを問題にしています。このように、パレスチナはあまりにも長く全世界を脅し続け、エルサレムさえ手に入れば、中東が火の海にならないようにする、と言いますが、しかし中東は、パレスチナがなくても火の海です。彼らは、自分たちの策略が恐らくリストの一番最後まで押しやられたであろうことを理解しています。現在、サウジアラビアのような国が、イランから生き残ることに必死で、また現在は、レバノンやシリアのような国が、崩壊寸前です。今ではリビアも崩壊、文字通りイラクは不安定で、中東全体が実に不安定、パレスチナはもはや、誰の事も脅すことが出来ないのです。すでに、それぐらい悪化しているのです。彼らがいなくても、です。ということで、パレスチナは「激しい怒りの3日間」を宣言しました。と言っても既に二日が過ぎ、特に何も起こっていませんが。現在、私たちは明日に備えています。明日は金曜日ですから。通常、金曜日になると…世界中の宗教の中で、神の家に行って悔い改めや平安、静寂を感じるのではなく、復讐、流血、殺害の意欲に満たされて出て来るのは、彼らだけでしょう。私には理解できませんが。ともかく言えるのは、パレスチナには何か事を起こすためのまとまった計画が何もないのです。私たちは暴動が起こることを覚悟しています。それでも、ガザの暴動と、たぶん、神殿の丘での暴動、その程度です。世界は、暴力を問題解決の策だと見ていないことを我々は理解していますし、彼らもまた理解しています。彼らは、これまでにそれを数回にわたって試みましたが、3回の異なるインティファダを起こしましたが、彼らは、それを始めるたびに

10年後退したのです。そしてそれから10年後、また次のインティファダを起こし、また10年後退しました。彼らは、それが上手く行かない事は理解しているのです。暴力では解決できません。

ところで、明確にしておきますと、イスラエルは、エルサレムをイスラエルの首都と認識する事なしには、誰とも、いかなる協議にも合意しません。トランプ大統領はそれを理解したのです。彼は、それを理解して言ったのです。

「20年間、イスラエルとパレスチナは向き合って話し合ってきたが、全く話にならない理由は明白だ。イスラエルはエルサレムを決して手放さないし、パレスチナも決してイスラエルを諦めないのだから。だから、我々がエルサレムをイスラエルの首都として認識して話を終わらせない限り、彼らの間に平和は絶対がない。前に進みたいなら、パレスチナは次のことを理解しなければならない。これは、イスラエルの首都であり、もしイスラエルが分割したいなら、もしイスラエルが一部分を分けようと思うなら、イスラエルにはそれが出来るのだ。」

また、トランプ大統領は、『二国解決策』の呪文に囚われていない初めての大統領で、彼が昨日言ったことで、皆さんが気付かれたかどうか分かりませんが、こう言っています。

「“もし”、両者が合意し、求めるなら、我々は二国解決策を支援する。」

言い換えれば、もし、この二国解決策に両者が合意していないなら、我々はそれを推し進めることもしない。全く無意味だ、ということです。この20年間、世界がそれを押してきたのに、全く上手く行っていないのです。明確にしておきますと、1947年、国連は二国解決策に投票をしました。そして、それを拒絶したのは誰だか分かりますか？アラブ側、パレスチナです。彼らが求めたのは、「100」か「0」のどちらかで、彼らが得たのは「0」でした。それから50年後、彼らはまた同じ賭けをして、エルサレムの全てか、もしくはゼロか。そして、なんと彼らは、何も得られなかったことに先ほど気づいたのです。ですから、これは彼らにとってリアリティーテストだと思います。また、これが彼らにとって嘆きの瞬間になることを願います。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、今回の動きの反応でアラブ界が分断しています。一方で、穏健スンニ派が今回の事によって生ぬるい失望を感じていて、もう一方では、何も言えないイランがいます。なぜならイランは、戦争を望む者と見られているからです。だから彼らはヒズボラを送り込んで次のように言わせました。

「これは大惨事以外の何ものでもない。“バルフォア宣言”と同様だ。」

物凄く面白いですね。彼らは、トランプ大統領の歴史的な動きを、1917年のバルフォア宣言と同じくらい歴史的なもの——たぶん、彼らにとっては絶望的でしょうが——だと、自ら認めているのです。

では、トルコの反応についてお話ししましょう。これは非常に重要です。皆さん、トルコはエゼキエル38章戦争において、非常に重要な役割を果たします。ですから、その状況についても言及しなければなりません。トルコの大統領は、現在の状況を利用しようとしています。彼は、新しいカリフになろうとしていて、彼はスンニ界に伝えようとしています。

「サウジはぐらついていて、こんな動きに対して、立ち上がって統率しようとしません。しかし、私はこんなことを許してはおかない。」

彼は既にエルサレムを「栄光」と呼んでいて、このような事に携わるなら、彼はムスリムから大きな支持を得て、いくらかの栄光を受けられると分かっているのです。そこで、彼は昨日、基本的にこう言いました。

「皆、これは火遊びで、ロクな事にはならない。だから我々は、イスラエルとの全ての関係を断絶しなければならぬ。」

トルコにとって、イスラエルに攻め込み、イスラエルを攻撃するには、まずはトルコがイスラエルとの親交を断絶しなければなりません。トルコは、イスラエルとの関係を完全に断ち切らなければならないのです。そして、今はそれが起こり得る瞬間だと思います。あの宣言は、エルサレムを物凄い形で交渉の場に出ただけでなく、中東を分断させたのです。それによって、エゼキエルの預言がどのように成就されるのかが見て取れるようになってきました。これまでは、ただトルコがイラン、ロシアと同盟を組んだ、という点だけを見ていましたが、なんと、トルコはイスラエルとも国交があったのです。トルコはイスラエルと外交的つながりがあり、イスラエルとの軍事的繋がりもありました。しかし、この宣言をきっかけに、トルコが宣言するのも知れません。

「もうたくさんだ。今、我々の怒りを表明しよう。」

「今、ムスリム界に対して表明する。我々、オスマン、1800年代、1700年代、1600年代のカリフが、また王座に戻ってきたのだ。」

エルドアンはずっと、必死になって自分のイメージをただの首相やただの大統領から、スルタンに仕立て上げようとして来たのです。今こそ、彼のチャンスなのです。今こそ、言葉を発し、火を煽り、全ての内情を自分の利益のために使うチャンスなのです。今回の事で大きなデモが起こっているのは唯一イスタンブールだけで、他にはどこも見当たりません。唯一、世界でおかしなことが起こったのはアムステルダムで、一人のアラブ人がパレスチナの旗を身にまとい、ユダヤ人のコーシャレストランを攻撃し、窓ガラス一枚を割りました。それだけです。想像できますか？

ということで、トルコについて話しましたし、アラブについても話しました。パレスチナの反応についても、彼らはショックを受けていることを話しました。彼らは、どうして良いのか分からないのです。先ほども言いましたが、明日は激しい怒りの日になるかも知れません。暴力的な一日になるかも知れません。私たちには分かりませんが、ただ、彼らも今は理解しているのです。長い目で見て、暴力では彼らの目的は達成できない事を理解しているのです。

恐らく、皆さんはご存知ないでしょうが、昨日、もう一つ起こったのが、パレスチナにとって大打撃となることで、議会で、ある決議が可決されました。外交問題委員会が、議会で「Taylor Force 決議」案を提出しました。テイラー・フォース氏はアメリカ海軍兵で、イラク、アフガニスタンを何度か行き来した後、彼は軍を去って、バンダービルド大学へ入学していました。そして、休暇中に彼がイスラエルを訪れていた時、パレスチナ人がテルアビブで彼を殺害したのです。このテロ攻撃で、11人が負傷し、一人が殺害されたのですが、それが、彼でした。興味深いのは、当時（書記注：事件があったのは2016年3月8日）オバマ大統領の時代の国務省とアメリカ政府は、パレスチナの大統領とパレスチナ政府が、テイラー・フォース氏を殺害したテロリストの家族に、お金を与えていたことを発見したのです。そこで、パレスチナ高官がテロリストの家族への資金提供を止めるまで、パレスチナへの資金提供を止める

議案が、2016年に提出されました。それがなんと、三日前にアメリカ議会がそれを証明し、決議となったため、パレスチナは3億ドルを失います。彼らがアメリカから受け取ったお金の全てを、彼らは自分の懐に入れるか、テロリストに与えていましたが、それがなくなるのです。だからパレスチナは、この状況下で自分たちに残されているのは負けしかないのだと、理解しているのです。これは大打撃、激震が走ったのです。激震だと言っておきます。

皆さんに言っておきますが、大使館は移動しません。少なくとも、この一年以内に移動することはない、と私は思っています。計画や建築や何かだけでも6ヶ月はかかり、承認したり修正したりするのに、また時間がかかりますから、大使館が移動となる頃には、恐らくトランプの初任期が終わりに近いでしょう。しかし、宣言そのものが物凄い象徴的な動きでした。

次に、はっきりとお伝えしておきたいのは、聖書が約束しているのは「全世界の問題となるのはダマスカス」ではなく、「エルサレムが、全諸国の問題となる」ということです。ダマスカスは破滅します。イザヤ書17:1を、私たちは知っています。数日前に、フェイスブックライブでそれについてお話ししました。ダマスカスの内側に軍事施設を建設する、と現在イランが言っていることをお伝えしましたね。ダマスカスの外側では、イスラエルに簡単に破壊されることを彼らは理解しているのです。ですから、ダマスカスはすでに、自らイスラエルの標的になる準備ができています。我々はそれを容認しませんから。皆さん、お分かりですね。ということで、今回起こったのは、エルサレムが「よろめかす杯」となってきたという事です。全世界の問題は、エルサレムなのです。考えてみてください。国の首都を認識する事が、国連安保理にまで行き、ローマ法王に行き、全大帝国の全指導者に行き、全世界を揺さぶりました。それがイスラエルにある、ただの町です。はるか3,000年の時を遡り、ダビデがエブス人から奪い、ユダヤ人の首都とした町です。当時の硬貨が見つかっており、当時の陶器の印も発見されていますし、ダビデ宮殿の基礎も発見されています。その当時のものは、全て発見されているのです。いろいろなことで議論は出来ても、考古学に関して、事実に関しては何も議論が出来ません。ソロモン王の時代の物も発見されていますし、ソロモン後の王たちの時代の物も発見されています。紀元前586年の、バビロンによるエルサレム崩壊の証拠も見ついています。ユダヤ人の帰還と、ネヘミヤによる復興の証拠も見ついています。それをユダヤ人地区の真ん中で発見したのです。ネヘミヤ書3:8に、ネヘミヤが修復したと書かれている、広壁も発見されています。新約聖書が告げている、新約聖書の中で語られているエルサレムも発見されています。ちなみに、ご存知ない方のためにお伝えすると、そこはユダヤ人街です。ローマによる破滅の残骸も見ついています。これら全てが、イスラムが生まれるはるか何百年も前のものです。ですから、国連が

「エルサレムとユダヤ人とは、何の繋がりもない。神殿の丘とユダヤ人とは、何の繋がりもない」というのは馬鹿げています。そして今——聖書には

11 まことは地から生えいで…

(詩篇 85:11)

とありますが、確かに、考古学がその全てを証明しています。しかし、世界はわざと見て見ぬふりをしてきたのが、大胆な一人の世界的指導者によって変えられました。私は、彼の事をとても誇りに思っ

います。また私は、フィリピンの大統領の事も誇りに思っています。彼も、大使館移動の計画を進めて行きます。それから、これに続くことが分かっている他の国々も、私は誇りに思っています。言うておきますが、アラブ界は大変なショックを受けていて、私自身、ビホールドイスラエルのフェイスブックや、ウェブサイト、インスタグラムで、チュニジアやモロッコ、リビア、それから北アフリカではない方のアラブ界の、おびたしい数のムスリムたちから、酷い言葉で脅迫を受けています。彼らが物凄い衝撃を受けているからです。彼らは、何でこんな事になったのか、理解できないのです。

次に、イスラエルの反応をお伝えしますと、イスラエルのメディアは——私は彼らをミデヤン人と呼んでいますが——物凄くリベラルで、最悪な事が起こる、これはとんでもなく無責任なことだ、と恐れているのは彼らだけです。考えてみてください。誰かが、エルサレムをイスラエルの首都と認識したことで、イスラエルはアラブ界に対して謝罪しているのです。しかし、これはメディアの話であって、イスラエルの政治家のほとんどはエルサレムに関して、イスラエル市民の中に民意の一致があることを理解しています。だから政治家たちは、この決断に関して悪く言うのを物凄く恐れています。イスラエルの大統領は今回の事でドナルド・トランプを賞賛しました。イスラエルの反対側の指導者たちでさえ、あの認識を賞賛しています。次に、とても興味深いのが、イスラエルには民間から完全に隔離されたメディアが存在しますが、民間はトランプ大統領が大好きです。昨日、嘆きの壁に、アメリカとイスラエルの国旗が映し出されて、素晴らしかったです。また、昨日はトランプが、嘆きの壁を解放している写真が、1967年の戦争で、我々がアラブ人の手から嘆きの壁を解放した時の写真とモンタージュ写真のように映し出されたりして、彼はイスラエルの人々にとても賞賛されています。

皆さんにお伝えしたいのは、

3 あなた（イスラエル）を祝福する者をわたしは祝福し、あなた（イスラエル）をのろう者をわたしはのろう。

（創世記 12:3）

と、主は言われましたが、

「あなたが世の策略に従うなら、わたしはあなたを祝福しよう」

とは決して言われませんでした。

「周りの人が常に良い気分でいられるようにしなさい」

とは決して言われませんでした。そして主は、

3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。

（創世記 12:3）

と言われただけでなく、イスラエルとエルサレム、それからイスラエルの民を分割しようとする国は誰でも、厳しく裁く、と言われました。どこで？とても皮肉なことに、裁きはエルサレムで行われます。キドロン溪谷で知られる、ヨシャパテの谷です。ヨエル3章にそれが書かれています。神が、全諸国を集める、と。神が「全諸国」と言われる時は、全諸国ですよ。なぜなら、世界の99%がエルサレムを首都として認識していませんから。そして、主が裁かれるのです。彼らが、イエスを信じたかどうかでは

なく、信じられないかも知れませんが、諸国は、イスラエルと、イスラエルの地と、エルサレムの町に対して行なった事に従って裁かれるのです。ちなみに、主が「この街の上に、わたしの御名を置く」と言われた町は、地球上で唯一、エルサレムだけです。皆さんも、私と一緒にイスラエルを訪れたら、半エーカー（2023 m²）のエルサレムの模型をご案内しますよ。それを見ると、エルサレムの谷が、ヘブル語の文字「シン」の形をしているのが分かります。シンとは、シャダイの最初の文字、「エル・シャダイ」とは、「神の御名」です。だから文字通り、神はエルサレムの谷に主の御名を彫り込まれたのです。

誰でも、エルサレムに触れる者は、ひどく傷を負います。そこは誰にも触れることが出来ず、誰にも分割することが出来ないからです。試しても良いですが、傷を負うだけです。試しても良いですが、裁かれます。試してみても良いですが、必ず負けます。必ず打ち負かされます。あなたには出来る、と考えるくらいは可能かも知れませんが、試してみれば良いでしょう。しかし、言っておきます。あなたは失敗します。なぜなら、聖書に明確に書かれているからです。イスラエルの敵と、エルサレムに攻め込む者たちは、…ゼカリヤ書を読んでください。12、13、14章の預言に、大患難の最後に、世界がエルサレムに攻めて来る、と書かれていますから。それから、事実、面白いのが、最後の最後に、聖書にはゼカリヤ書14章で、我々の間でハルマゲドンとして知られるその戦争、実際にはハルマゲドンでは起こらず、エルサレムで起こるのですが、それを生き残った全ての諸国は、毎年、エルサレムに行かなければならないのです。何を祝うために？

ラマダン？——いいえ。

クリスマス？——いいえ。

イースター？——違います。

仮庵の祭りを祝うためです（ゼカリヤ14:16参照）。そして、主は言われます。

17 地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムに上って来ない氏族の上には、雨が降らない。

18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いの上って来ない諸国の民を主が打つその災害が彼らに下る。

（ゼカリヤ14:17~18）

神は、エルサレムの事、イスラエルの事、ユダヤ人に対する、ユダヤ人を通して、主が行おうとされているそのご計画の事になると、それほどまでに熱くなられるのです。ということで、昨日起こった事は歴史的なことであるばかりか、聖書的な動き以外の何ものでもない、と言っておきます。エルサレムをまた表舞台に持ち出し、エルサレムを基本に、国々を分断したのです。これは物凄く重要で、かなりすごい事です。この事全部に、私は物凄く感動しています。

私たちは、今回の事が原因で、きっと困難な時を目にするでしょうし、中東が揺さぶられるのを目にするでしょう。人間が何を行なったとしても、神が完全に支配されているのです。神は、これらの全てをご存知です。それから、これを現在ご覧になっている信者の皆さんへの励ましの言葉です。見てください。

中東は準備が整って来ています。

エルサレムは、準備が整って来ています。

ヨーロッパは、準備が整って来ています。

あなたは、準備が出来ていますか？

彼らは皆、盲目にされていて、私たちに対する、あなたに対する神のご計画を、彼らには理解できません。彼らはそれが理解できず、神を馬鹿にし、神の御言葉をあざ笑うでしょう。彼らは、自分に結び付けて考えないのです。でも、あなたには、私たちには、神の約束があるのです。私たちは、これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上げ、贖いが近づいているのを確かに見るのです。

どうか皆さん、頑張りましょう。皆さんの中には、あとどれくらいここにおいて、耐えなければならないのだろうか、と疲れ切っている人もいます。しかし、この競争は、忍耐が必要なのです。この競争は継続が求められるのです。しかし、皆さんに保証します。私たちの世代は、イエス・キリストの時代以来、他のどの世代よりも、最も多くの預言成就を目にしている世代です。どうして耐えられないなんて、文句が言えるでしょう。想像できますか？この1,800年ほどの間、聖書預言に関しては、ほぼ沈黙だったのです。沈黙ですよ。1400年代や1500年代、1600年代に生きていた人たちの事が想像できますか？彼らも、神の約束にしがみついていたかも知れません。しかし、彼らは私たちが見ているようには、事が起こるのを見ていないのです。そして、聖書には、ヘブル10章にこう書かれています。

25 そしてかの日が近づくのを目にしているのだから、

(ヘブル10:25b 岩波翻訳委員会訳1995)

私たちはそれを見えています。かの日が近づいていて、私たちは想像したり、望んだりする必要はなく、私たちはそれを見ているのです。私たちは、それを見ている世代です。だから皆さん、元気を出してください。物凄い時代です。今は素晴らしい時代です。今はワクワクする時代です。そして今は、私たちは神の近くに留まるべき時です。今は、ヘブル10章が言っているとおり、集まることを止めてはいけない時です。今は、お互いに高め合い、助け合うべき時です。互いに争うのではなく、互いにねたみ合うのではなく、互いにいがみ合う時ではなく、今は、堅固な神の御言葉にしがみつくと時です。地獄や、罪について一切語らないような、耳触りの良い、水で薄められた福音を聴くのではなく、人間がすべき事の基本は、悔い改めです。今こそ、私たちが神の御言葉に繋がれ、どこであれ、私たちの置かれた場所で主に仕え、集まることを止めたりせず、互いに高め合い、福音を伝える時です。私たちの家族に、友達に、私たちの町で、私たちの国で。以上です。

(くしゃみ)

すみません。でも、思ったより上手く出来ました。ずっと咳き込むかと思いましたが、くしゃみ2回で済みましたから。大丈夫です。

繰り返します。…自慢しているように聞こえるかも知れませんが、私は自慢しているわけではなく、ただ皆さんに伝えたいのは、私は現場に足を踏み入れて、ビホールドイスラエルを皆さんに提供しています。言い換えれば、私はここに住み、自分の足をイスラエルの地、ガリラヤ、エルサレムに置いて、イスラエル軍、イスラエル政府に身を置いて、私の周辺全体の、イスラム界、アラブ界の政治を理解し

ています。ですから、ぜひフェイスブックやユーチューブで、私たちをフォローしてください。というのも、私たちはそのままの情報を現地、その地域から直接お届けしていますから。それもニュースだけでなく、それら全ての聖書的な意味をお伝えしています。まさに、このような時代のために、私は召されたのだと感じているほどです。だからたぶん、最近はずっと休めていないと感じるのだと思います。あまりにも多くの事が起こっていると感ずきますし、あまりにも多くの欺きが起こっているのを感じます。それと、あまりにも多くの不確かな情報、あまりにも多くのセンセーショナルリズム、それがクリスチアンの世界ではびこっていて、物事を実際よりも大きくして、実際に起こっていることを理解していません。ですから、どうかユーチューブチャンネルを登録、またはフォローしてください。それから、BeholdIsrael.orgからはニュースレターを登録してください。素晴らしい写真をご覧になりたいなら、Instagramをフォローしてください。Beholdisraelです。昨日、ガリラヤ湖の上に虹がかかっている素晴らしい写真を載せました。さらにこれから、もっと載せて行きます。これからも皆さんと繋がって行きたいと思っていますが、皆さんには繋がるだけでなく、お願いします、どうかシェアしてください。それが重要なのです。たった一回のクリックで、物凄く多くの人に、啓発と教養を与えることが出来るのです。多くの部分で、皆さんのメディアが伝えていない情報です。どこの国であろうと、メディアは決して伝えません。

ご視聴くださり、ありがとうございます。では、祈りましょう。

お父様、あなたの偉大な真実に感謝します。あなたが、イスラエル人と共に立つてくださり、エルサレムの町のために立ち上がってくださり、感謝します。主よ。トランプ大統領と彼の大胆さをありがとうございます。彼は正しいことを行い、ポリティカルコレクトの影響を多大に受け盲目になっている世を、全く恐れませんでした。お父様、感謝します。また、どうかイスラエルを守り、周りをあなたの盾で取り囲んでください。今の時代は、歴史的にワクワクするだけでなく、困難な時でもありますから。また、お父様、この動画を観ている人たちに、どうか励みを与えてください。あなたが全てを支配されているだけでなく、私たち全員に、素晴らしい将来を用意してくださっています。目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことのないもの、神を愛する者のためにあなたが備えてくださる、あなたの優しさ、あなたの約束に感謝します。主よ、あなたの約束に感謝します。あなたはもうすぐ来て、私たちをあなたの元に迎えてくださいます。イエス様、あなたのおられるところに、私たちをも居らせるためです。お父様、感謝します。あなたは私たちを、神の御怒りには、決して定められませんでした。ありがとうございます。これら全てを、イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

アーメン！ありがとうございます。God bless you!

I love you all!

シャローム！God bless you!

さようなら。